# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
# －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　平野区

学 校 名　大阪市立長吉南小学校

学校長名　吉 村　幸 子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和７年４月17日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## １　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

## ３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・大阪市立長吉南小学校では、第６学年　４１名

学校名　大阪市立長吉南小学校

## 令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

＜平均正答率＞　３教科とも大阪市及び全国の平均値より低い結果であった。【国語】61%（大阪比-4.0%/全国比-5.8%）【算数】48%（大阪市比-10.0%/全国比-10.0%）【理科】45%（大阪市比-10%/全国比-12.1%）
＜無解答率＞　３教科とも大阪市及び全国の平均値より高い【国語】4.8%（大阪市比＋1.0%/全国比＋1.5%）【算数】5.5%（大阪市比＋2.2%/全国比＋1.9%）【理科】4.3%（大阪市比＋1.3%/全国比＋1.5%）
＜分析＞
　国語の内容では「書く」「言語文化に関する事項」で、大阪市・全国平均共に上回る結果を得た。また、児童質問紙からは73.6%の児童が国語の学習に肯定的で国語の大切さを理解し学習意欲も低くない。算数・理科は全領域において大阪・全国平均より低位であった。正答数が多い児童と極端に少ない児童の差が大きく、正答数の分布は正規分布を示さず、学習内容の理解と習得に児童間で格差が生じていると考えられる。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］「書く」「我が国の言語文化に関する事項」で、大阪市・全国平均共に上回る結果を得た。国語を本校の研究教科とし、言語や漢字の基礎を反復する学習活動や叙述から文章の内容を的確に捉えまとめる学習を多く導入してきた成果と考える。しかしながら、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」は大阪市・全国平均を下回り、特に応用力である「情報の扱い方に関する事項」では平均正答率45.0%（大阪府比-16.5%/全国比-18.1%）となり大きな課題がある。今後も基本的な言語学習の反復を継続し習得の徹底をめざすと同時に、正確な読解力や的確な思考・判断・表現力を高める学習活動を工夫していく。
［算数］全領域において大阪市・全国平均を下回った。生活的な問題場面が提示された「測定」では平均正答率40.0%（大阪市比-14.9%/全国比-14.8%）で特にその差が大きかった。今後も「みなみタイム（朝学習）」で確実に基礎学力を身に付けさせたい。無解答の割合の多さについては、問題を解くねばり強さを養い、発展的な力につなげるなど基礎的学習内容の確実な定着を図る学習活動のさらなる工夫が課題である。
［理科］全区分・領域において大阪市・全国平均を下回った。特に区分Bの「生命」の領域では差が大きかった。自分の考えをもち意欲的に実験・観察に取り組み、結果や考察を適切に表す力を伸ばす必要がある。

質問調査より

　児童質問紙調査では「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」など自己肯定感や生活の満足感に関する質問、将来の夢や向社会性を問う質問などで、大阪市・全国平均に比べ肯定的回答が非常に高いまたは高い結果であった。学校生活をより良いものにするため、仲間と考え話し合い解決する意欲も高く、互いの良さを認め合い、学校生活・集団生活を楽しく前向きに過ごしていると考えられる。また学習に関する情意面の質問・回答からも、真面目に前向きに取り組もうとしていることが伺われる。先生との信頼関係も厚く、学校生活や学習面で望ましい前向きな思いを読み取ることができる。
　本校の児童の良さを大切にしながら学習への取組が実際の数値結果に結び付き自信が高まるよう、個別最適化を重要視した授業や活動をさらに工夫する必要がある。今後も自主学習ノートを継続、充実させるとともに自分で学習計画を立て自分自身で学習を調整する力も育むことで学力向上への意欲を高めていきたい。

## 今後の取組(アクションプラン)

・特に算数では習熟度別少人数学習をもとに効果的な個別対応を工夫する。みなみタイム（朝学）でも反復学習をもとに基礎的基本的学習内容の習得を図る。
・自主学習「ちょこ学ノート」の取組を継続し「学習意欲」の向上を促し「家庭学習」の習慣」と「学び方」を身に付けさせたい。また、自分の課題を見つけ自身で計画・実行することで達成感や充実感を感じながら学べるよう、自己調整の学習力を高めるよう支援の方法を工夫する。
・学力向上支援チーム事業における、チーフコラボレーター、スクールアドバイザーと連携し、児童の実態に応じた有効な授業改善の方法を研究し実施する。
・理科教育推進校（R7年度）の取組として理科補助員の協力のもと理科学習への興味・関心を喚起する授業や科学的思考力を高める学習活動を研究する。
・校長経営戦略予算等で多種多様な体験学習やキャリア教育を広く進め、一人一人の児童が自身の新たな可能性に気づき、様々な面で自信を持てる教育の充実に努める。